

--- ヒロシマ・ナガサキ被爆60年から チェルノブイリ・ヒバク20年へ ---

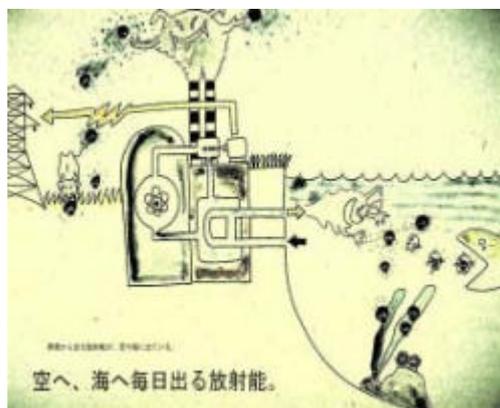
脱原発を求める運動を強化しよう

運転中の原発は、ますます危険に！

電力自由化の流れのなか、高くつく原発を安くするため、国も電力会社も運転中の原発に対する安全規制を緩めようとしています。実際に、長期連続運転や、定期検査期間の短縮を推し進め、検査の手抜きまでおこなっています。東電のひび割れ隠し事件に続き、昨年8月9日の関電の美浜3号炉事故で一層明らかになりました。にもかかわらず、維持基準を導入し、電力会社の判断で、ひび割れを見つけても補修せず、そのまま運転できるようにしています。



定検短縮の犠牲は原発下請労働者に



地震で原発重大事故が起ると・・・
空へ、海へ毎日出る放射能。

地震国日本で原発は大丈夫か

世界中で大きな地震が起こっています。日本でも新潟県中越地震、宮城県北部地震や宮城県沖地震など、各地で地震が多発しており、原発がはたして地震に耐えられるのか、危ぶまれています。

原発の耐震設計では、マグニチュード6.5 (M6.5)の直下地震に耐えるよう設計することになっていますが、実際には、それよりはるかに大きいM7.3の地震もよく起きています。

今から10年前、M7.3の阪神・淡路大震災が起こりました。地震による大きな犠牲を目の当たりにして直下地震の恐ろしさを思い知らされました。私たちは、このような直下地

震が原発を襲えば、現在の耐震設計ではもたないことを暴露し、訴えてきました。原発は短い周期の地震動(ビビリ振動)に非常に弱いことを中心に耐震設計の不備を暴いてきました。



あれから10年経った今、各地で地震が一層多発しています。新潟県中越地震では、ビビリ振動が強く、大きな揺れ(本震)の後でも、次々に余震が続きました。もし、このような地震が直下で起これば、原発は破壊されるおそれがあります。また、本震で少しでも亀裂が入ったり、変形したり、サポート部が壊れたりすれば、その後の大きな余震で、破壊が一挙に進む危険もあります。

スマトラ島沖の巨大地震では、巨大津波が発生し、多くの人々が犠牲になりました。巨大津波による原発の破壊もあやぶまれています。

東海 - 東南海 - 南海地震などは連動して巨大地震を起こす危険性があると警告されています。このような地震が浜岡原発を襲えば、私たちのいのち、健康、生活、経済などは一体どうなるのでしょうか。取り返しのつかない事態が起こる前に、なんとしても浜岡原発をはじめすべての原発を止めていかねばなりません。

原子力安全委員会でも原発の耐震設計審査指針の見直しが検討されており、委員の中から「M6.5の直下地震では過小評価でありM7.3まで考えるべき」との意見が出る一方、「現状と変

わらない地震動で十分だ」という主張も出されています。また、炉心溶融事故につながる地震でも「その発生確率が十分小さければ無視してよい」という議論も出されています。私たちには聞き慣れない「確率論的安全評価PSA」という考えをもちだし、安全だと言いくるめようとしています。

関電の事故もJR西日本の脱線転覆事故も事故を引き起こした企業体質は同じです。

JR西日本の事故は、スピード化を求め、過密ダイヤを編成し、回復できない遅れを運転士に強要し、非人道的な日勤教育で運転士を恫喝した結果、起きました。



昨年8月9日に美浜3号炉で配管破断事故を起こした関電も同じです。火力発電より高くなった原発の発電単価を強引に引き下げるため、原発の設備利用率を引き上げることに躍起になっていました。そのため、配管減肉の点検を軽視し、管理指針を守らず、守らせず、点検漏れ発見後も放置し、運転中に定期検査の準備をさせたため、配管が破断し、死傷者が出たのです。

「安全管理」が全くできていません。こんな状態の原発を地震が襲えば一体どうなるのかと思うと、恐ろしいばかりです。

地震に弱く電力自由化に生き残れない原発は、一日も早く止めていきましょう。原発のプルトニウム利用(プルサーマル計画)反対、六ヶ所再処理工場の運転中止を求めて闘いましょう。